

ルサフィールドハウスから発信する陸と海のシレココ・プロジェクト

～知床羅臼における既存の施設およびネイチャー体験プログラムを活用した誘客の推進～

ルサフィールドハウス（ルサFH）への誘客

ねらい：①先端部地区利用の拠点として人が集まる体制作り。②コロナ禍明けの利用者増に向けて、受け入れ体制を強化。③観光スポットとしての魅力向上。

イベント：観音岩までの岬トレッキング体験ツアー → ザイルワーク体験を通じて、岬トレッキングの危険性及び安全対策・レクチャー受講の必要性を普及。

シーカヤック日帰り体験ツアー → ツアーを通じて、知床羅臼でのシーカヤックの難易度を含む魅力を普及。スタッフのスキル向上も兼ねる。

クマ対策を学ぶキャンプ → 食糧管理やクマスプレー試射を含むキャンプを通じて、バックカントリー（BC）利用では欠かせないスキルを普及。

サケの遡上観察 → ルサFH周辺の活用を検討。町内にサケを観察する場所はなく、新しい観光スポットとなる可能性を探る。

BCプロモーション → 先端部地区のBC利用の価値とリスクを正しく普及。先端部地区へ行かない人でも楽しめる。

レンタル：フードコンテナの無料貸し出し → ヒグマ対策の向上。先端部地区BC利用では必ず持参する体制を目指す。利用者のメリットとなる仕組み作り。

ガイドブック：シーカヤックのガイドブック「知床の水路誌」を刷新 → 印刷製本までを予定、今後のレクチャーで活用する。

ヒグマウォッチングクルーズへの誘客

ねらい：①羅臼の新たなネイチャー体験プログラムとして定番化を目指す。

②ヒグマの適正な観察プログラムとして認知される（知床国立公園内で各所で発生しているヒグマへの接近や近距離撮影等の問題解消策）。

広報媒体：PR動画制作 → ヒグマに配慮した運航ルールを前面に出したPR動画を作成、YOUTUBE等による配信を行い、誘客を図る。

チラシ作成 → 地域の宿泊施設や空港などで配布できるチラシを作製、誘客を図る。

イベント：モニターツアー → 無料体験ツアーを実施、参加者には必ずSNS等によって情報を配信してもらい今後の誘客につなげる。

視察：運航業者による視察 → 先進地ウトロの同業者によるツアーを見学、羅臼でのツアーの強みを理解する。

BC利用者をホエールウォッチングへ誘客

ねらい：①BC利用者の滞在日数を増やし、地域の観光経済へ貢献。②羅臼が世界に誇る2大ネイチャー体験を同時に経てもらい、SNS等で魅力を発信。

③BC利用者の行動計画に余裕が生まれ、安全性が向上する。

BCレクチャー受講証の発行 → ルサFHで事前レクチャーを受け、BC利用したことが分かる証明書を発行。記念品にもなるもの。

BC利用者限定のホエールウォッチング無料乗船券 → 帰還スタンプが押されたBCレクチャー受講証を持参すると乗船できる。SNS等で情報発信してもらい羅臼の魅力の発信へつなげる。今後もBC利用者がホエールウォッチングへ参加する流れを検討する。